桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町
七丁目11番1号
桜の聖母学院
高校新聞部

校歌

美しきわがまなびや
山脈はめぐりて高きその姿
黄金なすそのやすらいに
汝をば育み
黄金なすそのやすらいに
みそらはほほえむ

紙面紹介

2面
- 輝く先輩 JICA鈴木真宝さん
- 中学校来春移転
- さらば青春18きっぷ＆東京取材
- 学生時代・大波先生

祝！野田町校舎50回目の卒業生

桜の聖母学院高校第71回卒業式

半世紀の間私たちを見守ってきた野田町校舎

3月1日、桜の聖母学院高等学校は第71回卒業生を世に送り出す。今年は野田町の中高校舎開設50周年にあたるので、この学び舎から巣立つ50回目の卒業生でもある。中学1年次の終わりからコロナ禍に見舞われ、中学卒業直前にはロシアによるウクライナ侵攻が始まるなど、揺れ動く社会情勢の中で過ごした高校3年間だったが、18歳で成人となって社会に羽ばたく97名に、いま惜しみない祝福が贈られる。

かつてはオリンピアンや世界大会出場選手などに与えられてきた、創設者の名を冠した本校卒業生最高の栄誉、聖マルグリット・ブールジョワ賞。しばらく該当者がなかったが、1年前3月の第51回全国高等学校選抜卓球大会の女子学校対抗で、団体競技では本校史上最高の全国3位に輝く原動力となった、久保菜々美さんと原田優衣さん（共に3年2組）に贈られる。

学校長賞には4名。同じく卓球部で2024年全日本卓球選手権大会に出場した星玲那さん、サッカー部からは令和4年度第77回国民体育大会サッカー競技の福島県代表に選ばれた、渡邉美紗都さん（共に3年3組）が、スポーツ・文化活動部門で選ばれた。生徒会活動部門では、副会長などを務めた髙橋歩佳さん（1組）、会長などを務めた菅野望来さん（2組）が、共に4期連続生徒会役員としての働きが評価されて受賞する。

なお皆勤賞・精勤賞は次の通り。後輩の皆さんも、ぜひこれらの先輩を目標に、努力を続けてほしい。

久保菜々美さん

原田優衣さん

星玲那さん

渡邉美紗都さん

髙橋歩佳さん

菅野望来さん

「聖マルグリット・ブールジョワ賞」

学校長賞受賞の対象となった生徒のうち、特に優れた功績を残し、在学中の後輩のみならず、後年にわたって後輩の良き模範となると認められる者

「学校長賞」

高等学校在学中の学業成績・生徒会活動・文化活動・スポーツ活動において、優れた功績を残し、後輩の良き模範となる者

⑴学業成績
　3学年を通して真摯に学業に臨み、各学年末評点平均が90点以上である者
⑵文化活動・スポーツ活動
　部活動や校外活動において、インターハイや国体などに出場するなど著しく活躍した者
⑶生徒会活動
　4期連続して生徒会役員として、積極的に生徒会活動に貢献した者
　（但し、4期連続者のいない学年は、3期とする）

「皆勤賞」

3年間を通して、無欠席・無遅刻・無早退である者

「精勤賞」

3年間を通して無欠席であり、遅刻・早退の合計が3回以内の者
（但し、3年次の出欠扱いは、1月末までとする）

【皆勤賞】
1組　佐々木　莉々紗
　　　佐藤　亜衣
　　　進藤　あけ乃
　　　飛田　千花
2組　佐々木　椛羽
　　　清水　桜花
　　　中村　春陽
　　　引地　賀暖
3組　引地　結香

【精勤賞】
1組　髙橋　歩佳
2組　寺岡　佳音
　　　原田　優衣
3組　田原　美咲

大学受験　現役合格体験記

新課程最初の受験となった今回も、3年生の先輩たちが素晴らしい結果を残している。この新聞の発行時期の関係で、一般受験の合格者の声まで載せることができないのは残念だが、後輩の皆さんはこれらの先輩の成功体験を参考に、1年後、2年後の目標実現に向けて頑張ってほしい。

氏名（出身中学校）
合格大学・学部・学科
【受】受験方式
【動】志望校を決めた動機
【勉】高校時代にこころがけた勉強方法
【活】高校時代、勉強以外に打ち込んだ活動
【桜】桜の聖母学院で学んでよかったこと
【後】後輩へのメッセージやアドバイスなど

金谷 真緒（福島市立飯野中）
国福島大学人文社会学群 行政政策学類

【受】学校推薦型選抜公募

【動】学際性に富み、分野を越えた幅広い学びができることに魅力を感じた。また地元福島と結びついた地域実戦教育が盛んな点に興味を持ったから。

【勉】どの教科も、基本である教科書の内容がわかる・解けることが、定期考査や模試の結果につながるため、とにかく教科書の理解に努めた。数学なら何も見ないで解くことができるか、世界史なら動画も参考にして流れを覚えるなど、教科ごとに合った勉強方法を、自分なりに模索した。

【活】調理部とインターアクト部の活動。多くの人と交流することができ、どちらも良い経験になった。

【桜】宗教の授業や宗教行事を通して見聞を広げ、社会の出来事に今まで以上に関心を持つことができるようになった。また先生方のサポートが手厚く、受験期には小論文指導や面接練習などで丁寧な対応をしていただき、感謝している。

【後】小さくても漠然としたものでも、早いうちに自分なりの目標を決めることが、進路実現への第一歩だと思います。目標を決めることで、今やるべきことやこれからの計画が見えてきます。また十分な休養をとり、メンタルを安定させ健康に過ごすことも大切です。後輩の皆さん一人ひとりが、充実した高校生活を送ることを心から願っています。

飛田 千花（福島市立野田中）
国福島大学人文社会学群 行政政策学類

【受】学校推薦型選抜公募

【動】公務員として福島県の地域社会に貢献したいと考え、そのためには学生の時から地域との関わりを持つことが重要だと思い、それが福島大学で実現可能と知ったから。また別学類の講義が受講可能で、より深く学びを探究できると考えた。

【勉】定期考査で良い点数を取れるよう勉強した。ワークやプリントを解き直し、特に小テストを直前にも見直すよう心がけた。テスト期間中は極力SNSを見ないようにし、勉強する環境をつくった。受験対策では、小論文の過去問や、面接練習をたくさんやって、問題形式に慣れるようにした。

【活】ダンス。ダンス部に所属しながら、地元のダンススタジオに通った。学校内外から刺激を受け、自分のスキルを上げるため毎日自主練習した。

【桜】先生方のサポート。志望理由書や小論文・面接など、担任の先生をはじめたくさんの先生に指導していただいた。面接練習は10回以上取り組み、自信をもって本番に臨めた。

【後】これからの進路に向けて大変なことがあるかもしれません。ですが大変は「大きく変わる」と捉えることができます。この気持ちは一歩前に進まなければ経験できません。前進し努力した先には、必ず明るい未来があります。人生は一度きりですので、後悔しないよう生活してください。健康第一に全力で「好き」を追いかけてください。

中村 真緒（福島市立清水中）
国福島大学人文社会学群 人間発達文化学類

【受】学校推薦型選抜公募

【動】中学校の音楽教諭を目指しており、教員としての実践力と音楽の専門知識を深めたいと思ったから。

【勉】音楽が専門だったため、空いている時間に音楽史や楽典の本を常に開ける状態にしていた。またテスト前には、理解が不十分なところを先生に質問するなどして習得するよう努めた。

【活】イベントでのピアノ演奏や、保育所、こども園でのリサイタルなど、自主的に活動し自信につなげた。

【後】早い段階で自分がどの道を進みたいか決めておけば、余裕をもって準備を始めることができます。また日々主体的に活動していくことで、視野が広がり、面接等での自己アピールに有効でした。高校生活を存分に楽しみながら、進路実現に向けて「今」できることを「今」しましょう！

松浦 一花（福島市立第四中）
公福島県立医科大学 保健科学部理学療法学科

【受】学校推薦型選抜公募

【動】被災者支援に関心があり、東日本大震災時に福島の医療に貢献した医科大学なので、そこから学べることは大きいと感じた。また大学の雰囲気やカリキュラム、最新の設備など魅力が多くあったため。

【勉】時間がかかっても課題を丁寧に解くことや、小テストや定期考査の勉強に力を入れた。覚えたいことは紙に書いて部屋の壁など目立つ場所に貼ることで、繰り返し見られるようにし、定着できるよう努力した。

【活】桜華祭実行委員会の活動。クラスメイトや他学年の人たちと協力し、成功のために頑張れたことは、とても良い経験になり、自分の成長につながった。

【後】高校生活は本当に一瞬です。笑って高校生活を終えられる道を選んでください。受験期には悩むこと、泣きたくなることがあると思いますが、そんな時はすべて吐き出して周りの人を頼ってみてください。頑張っているあなたを助けてくれる人が、必ずいます。

島貫 ひなた（福島市立第一中）
国宮城教育大学教育学部 初等教育専攻

【受】学校推薦型選抜公募

【動】小学校教員を志していたため、教育実習の多いこの大学で、子どもたちとの関わりを通して成長していきたいと考えたから。

【勉】勉強できる環境を見つけ、まずは挑戦してみること。わからないことがあったら先生に助けを求め、わからないをなくすよう心がけた。また「部活で忙しいから」「疲れているから」を言い訳にせず、毎日少しでも勉強するようにした。

【活】サッカー部の部活動。多くの人と出会い、自分を成長させることができた。悔し涙を流したこと、勝利の喜び、仲間と過ごした日々は、最高の思い出。

【桜】先生方の手厚い支援。受験期の小論文・面接指導に加え、集団討論の対策にも協力していただいた。また私は漢文が苦手で、それを相談したところ担当の先生が毎日個別で指導してくださった。

【後】日々を大切にしてください。「何であの時こうしなかったのか」と後悔してからでは遅いです。将来の夢のために、目標のために自分が今何をしなければならないか考え、毎日を全力で過ごしてください。そうした行動や強い意志が、皆さんの未来を切り開いてくれるはずです。「やれるかな」じゃなくて「やる」んです！応援しています。

佐藤 安香里（福島大学附属中）
私上智大学外国語学部 ドイツ語学科

【受】総合型選抜（カトリック高校対象特別入試）

【動】留学生が多く国際色豊かな環境で、ドイツ語を学びながら多様な文化や難民問題などを、専門的に学べると思ったから。

【勉】予習復習を欠かさず行った。その上で、確実に学力が身に着いたかを定期考査で確認した。受験では英語検定試験の取得が必須だったため、ネイティブの先生と積極的にコミュニケーションをはかり、スピーキング力の向上に努めた。

【活】インターアクト部の部活動。校内外での様々な奉仕活動に参加し、人のために行動することの大切さを学んだ。

【後】常に目標を持ち、その目標を見失わないための努力をすることが大切です。高校生活は短いので、自分の可能性を信じて様々な挑戦をしてください。きっとそれらすべてが人生の宝物となるはずです。

髙橋 歩佳（福島大学附属中）
私上智大学 総合人間科学部看護学科

【受】総合型選抜（カトリック高校対象特別入試）

【動】総合大学であるため、看護の勉強に加えて一般教養を学べること、外国語教育にも力を入れていることに魅力を感じた。またオープンキャンパスで受けた体験授業の先生のもとで、学びたいと思ったから。

【勉】定期考査の学習に力を入れた。1か月前から対策を始め、わからない問題を何度も先生に質問することで、自分の「わからない」を一つずつなくしていった。休日は友人と一緒に自習室に通い、学習習慣を身に着け、モチベーションを保つよう努めた。

【活】生徒会とダンス部の部活動。受験直前まで活動があり、勉強との両立が大変だったが、苦難を乗り越えた自分に成長を感じた。

【桜】志望校に進学した先輩たちからの応援の言葉が、目標達成の原動力になった。

【後】高校3年間はあっという間なので、部活動や課外活動に積極的に取り組んでください。それらから得た経験は、受験生になった時に役立つはずです。今できる経験を後回しにせず積み重ねていき、後悔のない高校生活にしてください。

三浦 彩聖（福島市立渡利中）
私上智大学 総合人間科学部社会福祉学科

【受】総合型選抜（カトリック高校対象特別入試）

【動】社会福祉を、政策と臨床の両面から深く学べる点に魅力を感じた。また国際性に富んだ環境の中で、多様な価値観に触れながら、自分の視野を広げることができると考えた。

【勉】反復で学習すること。一度頭に入れても忘れることが多いので、通学や休み時間などのすきま時間を活用して、着実に定着させるようにした。わからない問題は先生に質問し、理解してから何度も解き、徹底的にわからない問題をなくすようにした。

【活】吹奏楽部と調理部の部活動と、ボランティア活動。様々な人と協力しながらの活動は、大きな経験となった。3つの活動を継続する中で、自分の成長を感じ自信につながった。

【後】興味のある分野や行きたい大学がまだ決まっていない人は、今のうちに様々なことに挑戦してみてください。私も色々な種類のワンチャレ（注：本校生が必修の、1年間に一度は何らかのコンクール等に応募する取り組み）を通して、自分の興味ある分野を見つけました。失敗を恐れずにまずやってみることが大切です。意外なところで自分の興味や可能性を発見できるかもしれません。

進藤 あけ乃（桜の聖母学院中）
私明治薬科大学 薬学部薬学科

【受】学校推薦型選抜公募

【動】将来薬剤師として働きたかったので、この大学の高い国家試験合格率に魅力を感じた。オープンキャンパスに行った際の雰囲気も、自分に合っていると思ったので決めた。

【勉】授業でわからなかった所を絶対に残さないよう意識した。特に理系科目や英語では、理屈が理解できるまで自分で考えたり、先生に質問するようにした。受験勉強では同じ問題集を何周も繰り返すことで、知識を確実なものにした。

【活】新体操部の部活動。大会運営の手伝いや、ステージ発表の際の他部活との連携などの経験を通し、技術面以外のことも学べた。

【桜】受験期だけでなく、普段から一人ひとりのことをみてくれる先生方。

【後】高校生のうちにやりたいことがあるなら、どんどん挑戦するのが良いと思います。受験生になるのはあっという間です。勉強面では日々のテストや定期考査をおろそかにしないで真剣に取り組むだけで、十分受験を乗り越える力がつくはずです。

久保 菜々美（いわき市立小名浜二中）
私青山学院大学 総合文化政策学部総合文化政策学科

【受】総合型選抜

【動】関東一部リーグで活躍する強豪校でもあり、学業面でも幅広い分野や技術を青学独自のラボ・アトリエ実習において、企業などの外部機関と共同で学び高めることができるから。

【勉】部活動との両立で、まとまった勉強時間を確保することが難しかったため、休み時間に授業のまとめや振り返りをして、日にちが経っても理解しやすいノートのまとめ方を工夫した。またワークなどの問題を解く際には自分の理解度を確認できるよう、色を使い分けて取り組んだ。

【活】卓球部の部活動。他の強豪校に比べ人数が少ない分、団結力を高め「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を実現できた。春の全国選抜大会で3位となってメダルを取ったことは、一生の思い出。

【後】高校生活は、中学生活とは比べものにならないほど、あっという間です。興味を持ったことにはどんどんチャレンジし、後悔の残らない充実したものにしてください。桜の聖母には、どの高校でも味わうことができない魅力がたくさん詰まっています。全力で楽しんで、青春の思い出をつくってください。

新課程初の共テを終えて

2025（令和7）年度の大学入試は、現在の3年生から導入された新課程に対応する最初の入試となった。1月18日(土)～19日(日)に行われた第5回大学入学共通テストは、移行措置の対象となった旧課程の浪人生も含め、全国で約46万人が受験、大きなトラブルなく終了した。今回変わったことや今後受験する1・2年生へのアドバイスなどを、本校進路指導部長の吉田充先生にうかがった。

Q：新課程になって変わった点を教えてください。

A：新たに新教科「情報」が加わり、これまでの5教科7科目の900点満点から、6教科8科目の1000点満点に。そして国語は「実用的な文章」が加わって5問構成となったため、10分長くなって90分に。数学はこれまでの「数Ⅱ・数B」が「数Ⅱ・数B・数C」となり、10分長くなって、「数Ⅰ・数A」と同じ70分となりました。

何より大きく変わったのが地歴・公民で、地歴では総合科目に探究科目を組み合わせた「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」が登場。公民でも新科目「公共」に従来の「倫理」「政治・経済」を組み合わせた「公共、倫理」「公共、政治・経済」が新設されました。本校生は履修科目の関係で、この中の「歴史総合、世界史探究」（国立文系・私立文系）と、「公共、倫理」（国立文系・国立理系）を選択することになります。

Q：新登場の「情報」の内容や対策は？

A：読解力があれば解ける問題で、全国平均も7割近くになりました。読解力は、前身の大学入試センター試験の時代よりも、全教科にわたって一層必要になっているので、1・2年生のうちからしっかり力をつけておいてください。

Q：本校生の状況は？

A：本校は伝統的に文系教科はまずまずなのですが、理系教科が弱い傾向があります。自分の好き嫌いや興味関心で選ぶのも良いですが、自分の適性を考えるのも大切。好きなことと適性のバランスが取れた選択をしましょう。

Q：1・2年生へのアドバイスを。

A：先ほど話した読解力の不足と、そもそもの知識不足が心配です。授業で学んだ基礎を反復して知識を定着させましょう。また普段から新聞や本を読んで読解力を身に着けておかないと、共通テストで苦労するだけでなく、その後の学びも困難になります。日々の積み重ねあるのみです。

令和７年度入試　大学合格者数

2025年2月17日判明分 現役生のみ

学校名	学部名	学科・専攻・コース名	合格者数
福島大学	人文社会学群	行政政策学類	2
		経済経営学類	1
		人間発達文化学類 芸術・表現コース　音楽	1
		人間発達文化学類　人文科学コース	1
		人間発達文化学類 数理自然科学コース	1
宮城教育大学	教育学部	初等教育専攻	1
福島県立医科大学	保健科学部	理学療法学科	1
青山学院大学	総合文化政策学部	総合文化政策学科	1
麻布大学	獣医学部	獣医保健看護学科	1
石巻専修大学	理工学部	生物科学科	2
神奈川大学	法学部	自治行政学科	1
		法律学科	1
関西学院大学	文学部	総合心理学科心理科学専修	1
	法学部	法律学科	1
郡山女子大学	家政学部	食物栄養学科	2
国士舘大学	法学部	現代ビジネス法学科	1
		法律学科	1
	理工学部	理工学科建築学系	1
駒澤大学	法学部	政治学科	1
淑徳大学	総合福祉学部	社会福祉学科	1
上智大学	外国語学部	ドイツ語学科	1
	総合人間科学部	看護学科	1
		社会福祉学科	1
	法学部	法律学科	2
仙台青葉学院大学	看護学部	看護学科	2
帝京科学大学	生命環境学部	アニマルサイエンス学科 動物看護福祉コース	1
帝塚山大学	教育学部	子ども教育学科	2
	現代生活学部	食物栄養学科	2
	心理学部	心理学科	1
東京女子大学	現代教養学部	国際社会学科	1
東北学院大学	経済学部	経済学科	1
	国際学部	国際教養学科	1
	地域総合学部	政策デザイン学科	1
	人間科学部	心理行動科学科	1
	文学部	歴史学科	1
	法学部	法律学科	3
東北工業大学	建築学部	建築学科	1
東北福祉大学	教育学部	教育学科初等教育専攻	1
	健康科学部	医療経営管理学科	1
		保健看護学科	2
	総合福祉学部	福祉行政学科	1
東北文化学園大学	医療福祉学部	看護学科	2
東洋大学	経済学部	国際経済学科	1
	健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	1
	国際学部	国際地域学科	1
	社会学部	国際社会学科	1
獨協大学	外国語学部	フランス語学科	1
南山大学	国際教養学部	国際教養学科	1
新潟医療福祉大学	リハビリテーション学部	作業療法学科	1
日本女子大学	文学部	英文学科	1
日本大学	法学部	法律学科・総合法コース	3
白鴎大学	教育学部	心理学専攻	1
	経営学部	経営学科	1
宮城学院女子大学	学芸学部	心理行動学科	1
	教育学部	教育学科健康教育専攻	1
		教育学科幼児教育専攻	1
明治薬科大学	薬学部	薬学科	1
ヤマザキ動物看護大学	動物看護学部	動物看護学科	1
立命館大学	理工学部	数理科学科データサイエンスコース	1
龍谷大学	心理学部	心理学科	1

はりこ

▼今から30年前に放映された、NHKスペシャル「映像の世紀」シリーズ。社会科の授業で観た覚えのある人もいるだろう。その「映像の世紀」シリーズが、最新のAI技術によってカラー化され、戦後80年の今年に放映中だ▼今から100年ほど前の世界が、色鮮やかに蘇るのだが、観れば観るほど21世紀の現在と似た状況が多く、恐ろしくなる。戦争を知らない世代によって起こされた史上初の世界戦争・第一次世界大戦。アメリカの空前の繁栄と破たん、その陰にあった移民の排斥。自民族第一主義を唱える独裁者の登場。そして世界は第二次世界大戦への道を突き進む▼歴史上の出来事は結末がわかっている。だが現在起こっていることは、誰にもこの後の予想がつかない。3年を超えるロシアのウクライナ侵攻は、どのような形で決着するのか。辛うじて停戦となっているイスラエルとハマスの戦闘で、破壊され尽くしたガザ地区は復興するのか▼何よりその鍵を握っているのが、アメリカのトランプ新大統領だ。昨年の今頃日本では、トランプ氏が再び大統領に返り咲くことを、「もしトラ」などと揶揄していたが、そのもしが本当になった。再就任直後から世界に混乱を巻き起こしている▼中でも私たちの学校にも関係するのが「カナダをアメリカの51番目の州にする」というもの。当初は悪い冗談かとも思われたが、その圧力もあってかカナダのトルドー首相が3月で退陣することになった▼両国は隣接しているとはいえ、全く違う成り立ちを持つ。イギリス本国での迫害を逃れた清教徒が、新大陸のプリマスに上陸したのが1620年。奇しくも同じ年に私たちの学校の創立者、マルグリット・ブールジョワがフランスに生まれている▼マルグリットは33年後に現在のモントリオールの地を踏み、カナダの礎を築いた。だが七年戦争後の1763年パリ条約で、カナダはフランスからイギリスに割譲された。それ以降にイギリスが開拓した西部では英語が用いられているが、東部ケベック州などでは今でもフランス語が公用語だ。多様性を重んじる国民性も、アメリカとは異なる▼世界は再び力による現状変更の時代に逆戻りするのか。「映像の世紀」で映し出される悲劇を、繰り返してはならない。

輝く先輩

JICAで働く鈴木真宝さん

これまで好評のうちに連載を続けてきた、本校卒業生の先輩に在学中の大学を案内してもらって取材するシリーズは、左下の記事にある通り連載を終了せざるを得なくなった。それに代わって今後は第一線で働く社会人の先輩に焦点を移し、正月やお盆に福島に帰省した折にインタビューする形で、新シリーズをスタートさせることに。その第一号は、現在の3年生が一昨年の教育実習でもお世話になった、鈴木真宝（まほ）先輩にお願いした。

日本の国際協力の窓口・JICA

社会人1年目の鈴木真宝先輩

JICA（ジャイカ）という言葉は聞いたことのない人でも、「青年海外協力隊」や、「ODA（政府開発援助）」などは授業で習った覚えがあるだろう。日本が国として行う開発途上地域支援の様々な活動を、多岐にわたって担っているのが、外務省が所管する「独立行政法人国際協力機構（JICA）」だ。1974年の設立時からしばらくは「特殊法人国際協力事業団」と名乗っていたが、略称のJICAはそのままに、2003年から現在の名称となった。勤務する約2000人の職員は、準公務員の立場となる。

福島県民にとっては、二本松市の岳温泉に青年海外協力隊の訓練所があるので、より親近感がある。その正式名称は「JICA国際協力機構二本松青年海外協力隊訓練所」だ。そして真宝先輩とJICAとの出会いにも、後述するようにこの青年海外協力隊が大いに関係している。

真宝先輩は現在、東京都千代田区に本部があるJICAの、中東・欧州部の中東第二課に所属し、東京外国語大学時代に専攻したアラビア語を生かして、イラクのJICA事業に携わっている。このインタビューを行った1月には、下旬にイラク出張を控えていた。

中東は、世界の原油埋蔵量の約6割、天然ガス埋蔵量の約4割を占めている。日本は石油の輸入量の約9割を中東地域に依存しており、同地域の平和と安定は日本の経済発展にとっても非常に重要だ。だが中東地域ではこれまで多くの紛争が繰り返されてきており、その度に人々の生活が疲弊し、国際社会にも大きな影響を与えてきた。

また資源の有無による経済格差も見られ、資源保有国でも将来を見据えた原油輸出に頼らない経済基盤づくりと雇用創出が、大きな課題となっている。真宝先輩の働くJICAでは、こうした課題に応えていくことで中東諸国にとどまらず、国際社会に大きな役割を果たすことを目指して、協力を行っている。

現時点で本校生最後の「高校生平和大使」

そんな真宝先輩は、小学校から桜の聖母学院で学び、高校時代には多彩な活動にかかわった生徒だった。その中でも高校2年次に選ばれて1年間活動した「高校生平和大使」は、真宝先輩が現在の仕事を目指す上で大きな影響を与えた。

昨年10月、「日本原水爆被害者団体協議会（被団協）」がノーベル平和賞を受賞した瞬間に、被団協理事長の横に高校生たちがいて共に喜ぶ光景を、覚えている方も多いだろう。彼女たちが第27代の高校生平和大使で、12月には被団協の代表と共にノルウェーのオスロで行われた授賞式にも派遣され、現地の高校生たちと核兵器や平和について語り合う姿が大きく報じられた。

1998年に被爆地長崎で始まった高校生平和大使は、毎年全国の希望者の中から20～30名ほどの高校生が選ばれ、署名活動やジュネーブの国連軍縮会議への派遣など、「微力だけど無力じゃない」をスローガンに核廃絶や平和を訴える運動を続けている。福島県からは特に2011年の福島第一原発事故以降、複数名が選ばれるようになり、2015年に本校から初めて鶴蒔（つるまき）かれんさんが選ばれ、2017年には高橋怜奈さんが、そして翌年本校から2年連続で第21代平和大使に選ばれたのが、真宝先輩だった。

この第21代は全員女子だったこともあり、ジュネーブ派遣の中で世界中の外交官が集まるレセプションに参加した際、女性外交官から「女性は将来母となる可能性が高いことから、自分の世代に加え自分の子どもが生きる次世代のことを考える。そのため平和構築について積極的に考えることができると思う」と言われたことが特に印象に残っているそうだ。また活動を通してアラビア語が国連公用語であると知ったことから興味を持ち、大学の専攻を決めたという。

中学時代の先生との出会いが転機に

真宝先輩が初めて国際協力に興味を持ったのは、小学校3年生で体験した東日本大震災の時に、世界中から支援が寄せられたことだった。さらに同時期に起こったシリアの内戦を新聞記事で読み、同世代の子どもたちが自爆テロの犠牲となったり難民キャンプで生活を強いられている姿に衝撃を受け、国際協力を通していつか自分も支える側になりたい、国際協力に携わることで、震災の時に世界中から助けてもらった恩返しと恩送りをしたい、と望むようになったそうだ。

そして桜の聖母学院中学校2年生で山崎由起子先生に英語を教わったことで、その希望が一気に身近で現実的なものとなった。山崎先生はかつて青年海外協力隊としてセネガルに派遣され、その経験を生徒たちに伝えてくれていたことで、真宝先輩はJICAを通して国際協力に携わることができると知り、志すようになった。なお山崎先生は、現在高校3年1組担任の伊藤俊之先生の奥様である。

真宝先輩を囲んで

昨年4月にJICAに入社した真宝先輩は、最初はまず研修に始まり、3か月間のエジプトへの海外研修では、東京の本部でも作業をしている事業が実際に現地に届いていることを改めて実感し、やりがいが強まったそうだ。イラクへの初出張は、緊張はあるものの、現地の方々と直接話す貴重な機会であるため、楽しみの方が大きいという。

これからも安全には注意を払って、世界の最前線で活躍されることを期待すると共に、本校から真宝先輩のような道を志す生徒が、一人でも多く出ることを願ってやまない。まずは4人目の高校生平和大使を！

まず来春に中学校が移転

桜の聖母学院中高・花園町移転計画

前号の西内みなみ・新理事長先生へのインタビューの中でも触れられた、桜の聖母学院野田町キャンパスの中学校高等学校を、花園町キャンパスに移転し、幼稚園小学校短大と統合する計画。1月23日に報道機関への発表と記者会見が行われ、当日のテレビニュースや翌日の一般紙でも大きく報じられた。この学校新聞では、私たちにも大いに関係するこの移転計画をさらに深掘りし、当事者ならではの視点でその詳細やそれに伴う影響を考察する。

戦後福島の女子教育を担って80年

1月23日記者会見に臨む、西内理事長先生（中央）、落合中高副校長先生（左）ら

終戦の翌年1946年に戦災孤児などを受け入れ、花園町（はなぞのちょう）に桜の聖母学院初等学校（翌年の学制改革で、桜の聖母学院小学校に）が発足、その卒業生のために1949年桜の聖母学院中学校が設立。さらに1952年に、桜の聖母学院高等学校が開設された。校舎はすべて花園町キャンパスにあって、小学校までは共学、中学校以上は女子校となっていた。1955年には、女子短大の桜の聖母短期大学も開学している。

だが生徒数の増加に伴い、花園町の校舎では手狭になり、すでにグラウンドや屋内プールのあった、福島駅西口から西へ約1・5kmの野田町（のだまち）扇田（現7丁目）の校地に新たに中高の新校舎を建設、1975年春に中高が移転した。これが現在の野田町キャンパスだ。ちなみにこの学校新聞の次号では、野田町キャンパス50年の歴史を振り返る特集を予定している。

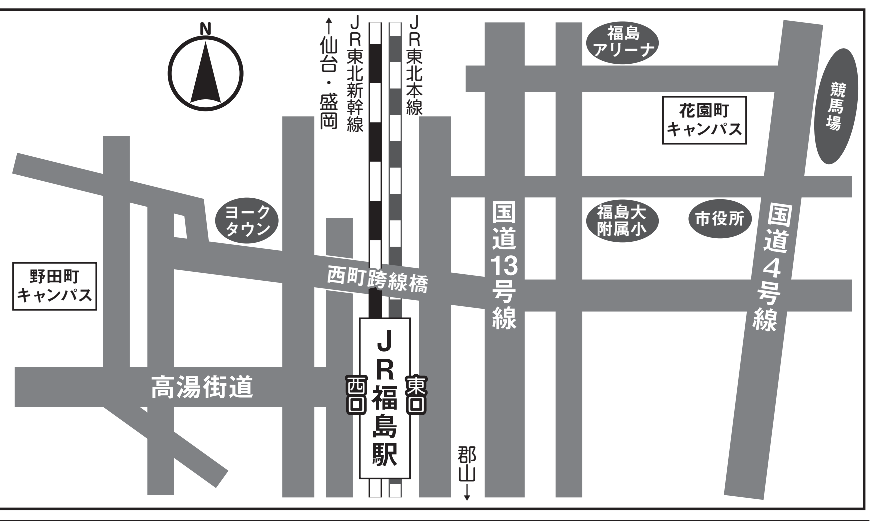
1989年には、現在においても他校ではなかなか見られないロールバック（格納式座席）を備えた講堂を増設。最盛期には中高の全生徒数が1200名を超え、中学校は1学年3クラス、高校は同6～7クラス体制で、1994年高校は全校で19クラス・900名を超えた。2008年には高校の制服が、現在のものに一新されている。

しかし2000年代に入ると、周囲の県立高校の共学化が進んだことで、併願校として女子校は敬遠され始め、さらには2011年の東日本大震災と福島第一原発事故による、全国的な少子化のペースを上回る子ども人口の減少などを背景に、現在中学校は1学年1クラス、高校は同3クラスと、最盛期の3分の1程度に。その分一人ひとりの生徒に手厚くかかわれたり、女子校を望む女子にとっては県北地区唯一の選択肢となっているが、50年を迎える校舎の老朽化もあって、改革が待たれていた。

高校は当面の間 野田町に

今回の記者会見では、今から1年後の2026年春にまず中学校のみが花園町に移転、小学校と統合されて男女共学の小中一貫校となることが、正式に発表された。義務教育である小学校と中学校が一貫となり、男子が中学校まで桜の聖母で過ごした後に高校受験という流れは、これまでも保護者などから要望が強く、そのニーズに応える形となる。5月下旬より花園町の小学校校庭に新校舎の建設が始まり、翌年春には中学校に男子を含む生徒を受け入れて開校する予定だ。

ただそうなると、これまで中高一貫女子教育を謳ってきた野田町キャンパスの高校は、共学化を含めどうなるのか。現時点で高校の花園町移転については、将来的にはその方向にはなるものの時期は未定で、共学化するかどうかも検討中。当面は現在のまま、野田町キャンパスで女子校として継続していくことになる。福島県の中通り地方では郡山の私立女子高とたった2つ、県内でも3つだけの希少な女子校として、まだまだニーズはある。ただ1年後に中学校が移転すると、これまで中高合同で行ってきた部活動や学校行事を高校のみで行わざるを得ず、このまま離れている状態が続けば中学校から高校に進学する女子生徒も減少する恐れも。これらを解消するためには高校も早期の花園町移転が必要だが、現在の在校生がいる間に移転はないことは確かなようだ。

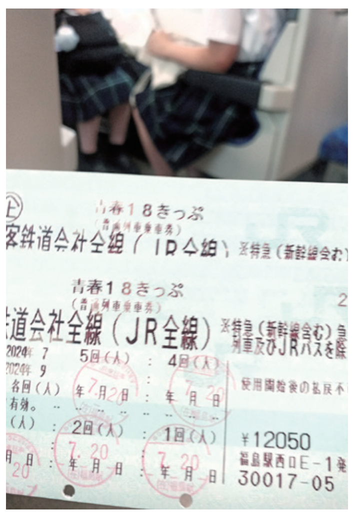


首都圏の大学では、70～80年代に郊外に広大なキャンパスを新設し移転する動きが起こったものの、最近になって都心回帰の傾向が顕著になっている。お隣り宮城県の伝統ある私立総合大学も、2年前に仙台市中心部の新キャンパスに各学部を集約したが、それに伴うメリット・デメリットも徐々にわかってきた。このような他校の例を参考に、最善の形で桜の聖母学院の移転が行われ、その魅力がさらに増して地域に必要な学院として存続していくことを、未来の卒業生として見守っていきたい。

さらば青春18きっぷ＆東京取材

この学校新聞でほぼ毎回連載を続けてきた「○○先輩の案内で行く～△△大学キャンパス見学記」。15年前にいきなりの東京大学に始まり、前号の東京芸術大学まで、本校卒業生が入学した大学をその先輩の案内で見学し、記事にしてきた。活動費や遠征費も基本的にない新聞部がどうやって東京に、しかも団体で頻繁に取材に行けるのか不思議に思われていたかもしれない。この東京日帰り往復取材を可能にしていたのが、JR史上最強にお得な「青春18きっぷ」だ。その名称のためよく誤解されるが、年齢制限なく使用できる。

昭和時代の43年前に元型が登場したこの商品は、春夏冬の長期休業中の期間限定で、当時の国鉄の在来線普通列車（快速含む）のみ1日乗り放題となる切符。当初は1セット5枚綴りで1万円、乗車時に日付印を押してもらえば1枚2000円でその日のうちに行けるところまで行け、分け合いも可能だったから複数名の団体でも使用できた。その後消費税の導入などで最終的には1万2050円に、5枚綴りだったものが1枚に日付印を5個まで押す形になったりと、若干の変更はあったものの、期間内なら利用日が離れていても使え、一度に複数名でも使えるといった利点は変わらず、昨年夏まで販売され続けてきた。



最後の使用となった昨年7月20日の東京往復

前号の東京芸術大学取材でもこの切符を使って生徒5名と顧問1名が、福島駅を6時発の東北本線上りに乗って12時前に上野駅に着き、取材後14時過ぎには下りに乗って20時半に福島に帰るという強行軍ではあったものの、一人あたり2410円で東京日帰り遠征ができていたわけだ（写真）。

これまで上智大学、慶應大学、明治大学、青山学院大学、津田塾大学、東京女子大学、国際基督教大学、東京外国語大学、千葉大学、そして八王子の中央大学までも、日帰り圏内として取材に行けた。首都圏以外でも磐越西線で新潟大学、両毛線で高崎経済大学、水郡線で筑波大学、北限の岩手大学など、福島から日帰り往復可能かつ先輩が在学していた大学は、ほぼ制覇。

また往復だけでなく、常磐線が東日本大震災から復旧して以降は、東北本線～常磐線～磐越東線～東北本線で中通り浜通りを1日で一周といった使い方もでき、前号の南相馬市「俺たちの伝承館」取材でも、このルートで一周しつつ途中下車。ちなみに顧問の先生は、この切符を使って2日間で九州まで到達したり、京都の実家に往復4820円で帰省といった〝荒技〟も使っていたそうだ。

これからも新聞部が大いにお世話になるはずだったこの青春18きっぷが、大幅改訂されるという寝耳に水のニュースが飛び込んできたのが、昨年10月のこと。冬からリニューアルされた切符は名前は同じで、5日用がこれまでと同額の1万2050円、新登場の3日用が1万円と、むしろバリエーションが増えたようにも見えるが、あくまでも1人による5日間もしくは3日間の「連続使用」が条件となったのだ。果たしてそんな連日JRに乗り続ける旅をする人がいるのかはさておき、私たちのように1日限りで複数名同時の利用は、事実上できなくなった。背景には自動改札を通せるようにしたいというJR側の事情があるらしい。私たちもこれまで有人改札の列に並んで駅に出入りしなければならず、列車の時間に遅れかけたこともあった。

ともかく今後「1日用」でも登場しない限り、東京日帰り往復取材はほぼ不可能となったのだ。右上の「輝く先輩」シリーズは、これまでとは逆に年末年始やお盆に福島に帰省する社会人の先輩をつかまえて取材しようという、苦肉の代替策でもあったわけだ。

移動手段とは、単に早く目的地に着けばよいというだけではない。車窓に流れる沿線の風景、駅ごとに乗り降りするその地方の同年代の高校生の姿など、在来線ならではの楽しみもある。コロナ前には、帰路の宇都宮行き快速の車内で、具合が悪くなったお年寄りを部員全員で介抱するというお手柄もあったそうだ。お金はないが時間はある、半世紀近くそんな学生たちの強い味方となってきた青春18きっぷの事実上の廃止により、ただでさえ物価高で閉塞感が増す日本社会が、また一つ魅力を失っていくのを危惧している。

私の学生時代

大波 桃子先生の巻

中学3年生の5月、一緒に練習をしていた桜の聖母学院高校サッカー部のインターハイ県予選の応援に、当時のチームメイトと一緒に行った。そこで接戦を落とし悔し涙を流していた先輩たちを見て、「私たちが聖母を全国に連れていく」と決意し、入学を決めた。サッカーばかりで勉強がおろそかになると危惧する母親に私は、大学は福島大学に行くと宣言し、こうしてサッカーと勉強に明け暮れる高校生活がスタートした。今思うと、もっとたくさんのことをすればよかったなと思うこともあるが、この3年間に後悔はない。目標だったインターハイ全国大会にも3年連続出場することができ、センター試験の2か月前まで部活を続けたが、何とか福島大学にも合格することができた。

福島大学には女子サッカー部はなかったので、中学生の時に所属していたBLOOMというクラブチームに戻り、サッカーを続けた。大学サッカーを続けた同級生の姿を見るとうらやましく思うこともあったが、中学生に教えながらサッカーするのも楽しかった。その選手たちが私に、指導者という新たな道を示してくれた。

また、大学生活では高校生の時にやらなかったことをたくさんチャレンジしようと思い、1年生の冬には上海への短期留学に申し込んだ。ワクワクと不安な気持ちで出発の日を待っていたが、私に届いたのは留学中止の連絡。これが私と新型コロナウィルスとの出会いだった。私に待っていたのは、オンライン授業となり友達にも会えない日々、ドラッグストアでアルバイトをしていたのでトイレットペーパーが店からなくなり、マスクはないのかと聞かれる日々だった。成人式はなくなり、サッカーの練習も、外出すら満足にできない状況だった。やりたかったことはもちろん、当たり前の日常も送れなくなり、思い描いていた大学生活とは全く違っていった。その中でもたくさんある時間を生かして、資格取得のための勉強を始めた。そして3年生になり、徐々に学校に通えた時は、友達に会えることがこんなにうれしかったのかと、今までの日常に感謝することができた。4年生になり、今までできなかった分、旅行にもたくさん行った。卒業式の日には同級生とお酒を飲みながら、充実した大学生活だったと実感した。

福島大学
Fukushima University
大学の卒業式にて、右から二人目が大波先生

私の大学時代は、人のことをうらやましいと思うことも、自分のおかれた環境に嘆くこともあった。しかしその中で、自分にできることは何か、新たなことにチャレンジできないかと考えてきた。その状況になったからこそ気づけたこと、感じたありがたさも、たくさんあった。みなさんも、こんなはずじゃなかった、と思うことは多々あるだろう。しかし、そのような状況でこそ、自分の選んだ道が正解だったと思えるよう、歩み続けてほしい。

そして私も24歳。まだまだ人生はこれから。常に向上心を持ち続け、新たなことに貪欲にチャレンジしていきたい。みなさんは、もっともっとこれから。自分のやりたいことに、たくさんたくさんチャレンジしていってほしいと願う。

編集後記

☀青春18きっぷの突然の改訂などで取材の形式や内容が変わりましたが、新しいやり方でこれからも頑張ります。（さらば青春の光）

☂貴重な遠距離大学取材ができなくなって悲しい。でも自分も受ける共通テストについて考える機会が持てました。（愛と青春の旅立ち）

♡真宝先輩のお話を聞いて、JICAや高校生平和大使などについて知ることができてよかったです。（青春の光と影）

♠小学生から興味を持った国際協力を、仕事で実現していることがカッコよすぎです。（青春アミーゴ）

★尊敬できる先輩方の活躍が光る新聞になりました。私も見習って様々なことにチャレンジしていきたいです。（来春中学校移転）

新学期に向けて
スタートダッシュ！
参考書フェア
辞書・電子辞書ご相談下さい。
FBN 文化情報発信館
西澤書店
福島市大町7-20
Tel.024-522-0161
Fax.024-522-4139

大切な写真は
●広々とした空間を持つ
—ファミリースタジオ—
●緑に包まれた
—ガーデンスタジオ—
●絵画が楽しめる
—サロンスタジオ—
PHOTO SALON
わが家のメモリーアート
ワタナベスタジオ
〒969-1612 福島県伊達郡桑折町字西大隅3-13
TEL024-582-3152 FAX024-582-3622

Luce & Friends
2025バチカン公式聖年マスコット
「ルーチェと仲間たち」
ステッカー¥70
アクリルキーホルダー¥250
アクリルキーホルダー¥250
ステッカー¥70
アクリルキーホルダー¥220
～すべて寄付額の目安となります～
マグネットシート¥150
寄付額に含まれる1個につき10円×2が、カリタスジャパンを通じてウクライナとガザの人道支援に贈られます！
クリアファイル¥110
※カリタスジャパン＝カトリック教会の援助組織
ご注文・お問い合わせは、荒賀先生へ

感動のそばに、いつも。JTB
旅は心の窓を広げます
お問い合わせ・お申込みは下記店舗まで。
—団体旅行—
㈱JTB福島支店
〒963-8004 福島県郡山市中町10-10 メルフ郡山1階
TEL 024-923-0657 FAX 024-933-6620
営業時間 9:30～17:30（土・日・祝日休業）
—グループ・個人旅行—
㈱JTB郡山店
〒963-8004 福島県郡山市中町10-10
郡山ビューホテルアネックス1階
TEL 024-939-3090 営業時間 10:00～18:00（火曜日休業）